

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター外部評価総括

令和2年3月9日に予定されていた北方生物圏フィールド科学センター(以下、センター)の外部評価委員会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から現地開催が中止となり、書面での評価を実施することとなった。2月28日に北海道知事による緊急事態宣言が出された直後の3月2日に現地開催の中止と書面での委員会開催を決定されたのは極めて適切なお判断であり、センターが緊急事態に対する頑健性を備えていることを象徴する一件であったと思われる。関係者の努力に敬意を表したい。

しかしながら、現地開催が行われない書面だけでの外部評価委員会は、センタースタッフ、外部評価委員(以下、委員)の両方にとって未経験の難事業であった。現地開催が行われた場合には、委員からのセンタースタッフへの確認や、評価の観点や基準についての委員間のすりあわせが容易だが、今回はメールだけで行うために、戸惑った委員は私だけではなかったようだ。次善の策として、前回(平成26年度)の自己点検評価と外部評価の結果がセンターのウェブページで公開されていた(比較的自由なご意見)ので、これを委員による評価の参考にしていただいた。

間違いなく超多忙な委員の方々には、自己点検評価書とプレゼン資料、安全マニュアルなどを読み込んで外部調書に詳細を書き込むことに、通常の外部評価以上に多くの時間と労力をかけていただいた。深く感謝したい。

各評価項目についての委員の意見は、この外部評価調書に記載されている通りである。外部評価委員の構成が多様であり、項目ごとの評価に若干のばらつきがあるが、教育活動、研究活動、社会貢献に関しては、全ての委員が、期待される水準を上回って(もしくは大きく上回って)実施されていると高く評価している。やはり、全ての面でとても頑張っているセンターであると高く評価したい。

一方、教育支援体制や財務、安全管理に関しては、期待される水準を下回るとの評価や、期待水準にあるものの問題があるとの評価意見を書いた委員が多かった。財政、老朽化、過疎、一人職場、安全管理など、個々の施設では対応が難しい課題が山積しているようにも思われる。労災件数が多いようだが、労災内容が不明であり、危険作業者を主とした教育訓練の実施などによるPDCAサイクルをきちんと回すことによる不断の改善が必要であると思われる。今は、経験豊富な技術職員や事務職員によって維持されている施設を将来どうするのかについての、北大北方圏FSとしての将来展望が示されていないように感じた。「技術支援本部」などを活用し、技術継承リスクを組織的に解消する努力を続けていただきたい。

委員のコメントを読むと、「先生方の熱意ある研究姿勢は、素晴らし」く、「地域との連携が密」であり、「フィールドを活かした教育や研究、社会貢献、国際交流などの活動を支えて」おり、「学術研究が専門化、細分化されていく中で、横断的な活動を担う」役割を果たし、「北方圏の魅力を学術的に発信する総合センターとして世界的にもかけがえのない組織」であるため、地域や「大学本部と調整・協力してセンターが一層発展することを期待する」と、委員は異口同音にセンターの特色と成果を高く評価すると共に、もっと広報することで広く国民や道民、そして北海道大学との連携による発展を期待していた。

最後に、外部評価調書に記載されなかった事項についても少し論考してみたい。冒頭に述べたように、新型コロナウイルスのために外部評価委員会は現地開催されなかったが、その後もこのウイルスは全世界的に蔓延して WHO はパンデミックを宣言し、この文章を書いている 4 月 5 日には世界で 130 万人以上が感染し、6 万 5 千人以上が死亡している。学会は中止され、学校が休校となり、自治体間の人の移動も制限される事態となっている。この新型ウイルスは南半球や熱帯域でも蔓延していて、100 年前のスペイン風邪以上の災害となり、その影響が数年間続くことが危惧されている。

もしもこの状態が続く場合、センターの多くの活動は変更を余儀なくされるだろう。

特に、国際貢献や教育活動、社会貢献は計画通りに実施できない可能性が高いと思われる。特に共同利用拠点に関する事業が受ける影響は大きいと思われる。

しかし、この災害下でも、センターの各施設は、それぞれのフィールドを活かした教育研究を展開していることだろう。センターの頑強性が高いことを期待したい。無人トラクターや ICT 農林水産に関する教育研究のメイン・フィールドはコロナ禍でも実施されているように思う。昔、苫小牧演習林から京大に異動した中野さんから、「研究のワンダーランド」を技術職員たちと作ったと聞いたが、苫小牧演習林だけでなく、他の全ての施設も、宮崎大学の私から見ると十分「ワンダーランド」だと感じる。

「ワンダーランド」に住む北大のセンターの皆さんにとって、今回のコロナ禍は、一度立ち止まって何が重要かを考える良い機会になるだろう。

この外部評価結果が活用され、センターの将来に大きく寄与することを期待したい。

令和 2 年 4 月 5 日

外部評価委員長 西脇亜也（宮崎大学・教授，
全国大学附属農場協議会 会長）

外部評価委員名簿

敬称略，五十音順

	所 属	役 職	氏 名
	様似町	町長	坂 下 一 幸
	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部	本部長 中央農業試験場長	竹 内 徹
※	国立大学法人 宮崎大学農学部 附属フィールド科学教育研究センター	センター長	西 脇 亜 也
	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部	本部長 中央水産試験場長	三 宅 博 哉
	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所	支所長	吉 田 和 正

※委員長